

# OPALLOZ

FEBRUARY 2008

ウーラノス

## Vol.27

### 特集 NEW WAVE TGU

- 進化する経済学部— 1
- 歴史を伝え、今に導く— 3
- 学長室より— 4
- 協奏、そして共創へ— 5
- 学部より— 7
- 大学院より— 8
- 学生たちは、今— 9
- 同窓生を訪ねて— 10
- 就職部より— 11

『黎明』。エポックという時代の曲がり角の中で社会は大きく変容しています。社会とは人と人との協同原理に基づいて形成されていたことを想起すれば、そうした変化にいかに対応し、いかなる社会を構築すべきかが問われていることとなります。大学のあり様も同様に問われています。一つの変革が全体を大きく進化・発展させていく起爆剤になることを期待して、高等教育機関としての本学に与えられた使命を十二分に果たせるように努力してまいります。

# 進化する経済学部

## － 経済社会の変容と経済学部改組 －

経済学部は、平成12(2000)年度に二部経済学部を改編して経済学科・商学科に昼夜開講制を導入し、さらに、平成13(2001)年度には、時代の要請に応じて商学科を経営学科に改称するとともにカリキュラムを充実させて、学部教育の充実を図ってきましたが、今般、学部教育のさらなる充実と発展を目指して、平成21年度より大規模な改組を行う予定です。平成21(2009)年度は、折しも本学が、戦後新たに制定された教育基本法、学校教育法に基づいて大学(文経学部)を創設してから60年目にあたり、また、経済学部の設置(1964年)から45年目にあたります。この節目にあたる年に経済学部は大きく発展・進化します。



### 新しい学部の設置 ～ 経営学部

経営学的視点を重視し  
社会の期待に応える人材を育成する

第一に、現行の経済学部の二つの学科、経済学科と経営学科から経営学科を分離して経営学部経営学科を新たに新設します。本学における6番目の学部の誕生です。近年のグローバル化の流れのなかで、企業経営をめぐる様々な問題や自治体等の公共部門においても運営を評価する基準として経営学的視点が重要になってきていることを考えると、「経営」に関する教育・研究の比重がますます増大するものと思われます。したがって、本学においても経営学部経営学科の設置は、社会の期待に応え本学全体の発展にも寄与するものと考えられます。

経営学部のカリキュラムは、従来からの経営学科の特徴を継承しつつ、ITの活用とインターネット経由の教育支援システム導入を前提として、少人数の授業・事例研究を一層重視し、実際に役に立つ経営学を習得できるものへと進化しています。

### 新学科創設 ～ 共生社会経済学科

新たな社会経済システムを構想し  
さまざまな立場で活躍する人材を育成する

第二に、現行の経済学科を2分割して経済学科の他に共生社会経済学科を新設



する予定です。新設される共生社会経済学科では、経済学のエッセンスを理解しながら、現代社会の抱える諸問題について理解を深め、問題解決に向けた取り組みを学びます。安心して、いきいきと暮らせる豊かな社会を築くためには、年代や性別、ハンディキャップ、民族・文化の異なる多様な他者への理解を深め、共に生きる発想が今後ますます必要になってきます。このような発想に基づいて、新たな社会経済システムの構築に向けた取り組みを個人、企業、NPO、NGO、地域社会、政府といったさまざまな立場で実践できる人材の育成を目指します。とりわけ、人口減少・少子高齢化は現代日本の喫緊の課題であり、共生社会経済学科では、人口減少・超高齢化社会における持続可能な社会経済システムの構築を主題にしています。

### 経済学科～カリキュラムの一層の充実

経済学を究め、より豊かな社会づくりに貢献できる人材を育成する

伝統ある経済学科では、カリキュラムを大幅に改正して、経済学の基本的な考え方、経済理論分野、経済政策分野、経済応用分野を学ぶことを通して、現代社会の経済的諸問題を的確に捉える能力やより豊かな社会を実現するための経済分析手法およ

び提言を行う能力を身につけ、社会に貢献できる人材、自分の夢を実現できる人材を育成することを主眼とします。

### 経済学部～夜間主コース募集停止へ

新しい学科の教育内容に生かされる  
夜間主コースの伝統と理念

今回の改組に伴って、平成21(2009)年度より現行の経済学部経済学科および経営学科の夜間主コースは募集停止になります。近年の教育ニーズの変化に伴って、夜間主コース入学者に占める勤労学生および社会人の割合が著しく減少し、夜間部本来の趣旨の実現が難しくなりましたので、募集停止といたしました。これまで長きにわたって夜間にも授業を行ってきた経済学部の伝統が途絶えることは誠に残念ですが、この伝統は、多様な条件を持つ人々との共生を目指す、新しい学科の理念と教育内容の中に継承されることとなります。なお、生涯学習時代の今日、本学の社会福祉研究所で28年間にわたって開講されています市民の方々を対象としているオープンカレッジのような公開講座等の充実と拡充を図り、市民の方々の学習意欲にもお応えしたいと考えています。

# 杉山元治郎 東北学院へ入学

経済学部教授 いわもと 岩本 よしてる 由輝



杉山さんが在学当時の専門部神学科校舎



後列左から杉山元治郎、菅井喜七、前列左から堀内真澄、池田亀之助

1906年の新年を迎えると、杉山元治郎さんは東北学院神学部別科への入学試験のための準備を始めます。科目は国語・漢文・作文・地理・歴史・聖書の6科目です。聖書の勉強には、とくに力を入れました。前号で紹介した聖書の章節に題をつけているのは、おそらくこのときの作業だと思われる。それ以外の5科目については、3月29日からやっと手をつけたと日記には書いています。

試験は4月6日に国語・漢文・作文・地理・歴史の5科目で、7日は聖書1科目でした。このとき杉山さんは面白い体験をしました。6日の朝、指定された試験場に開始時間の30分くらい前に行きました。すると、室内に3~4人の和服姿の年配の人がいました。杉山さんははっきり試験官だと思い、時間を間違えたかと思って謝りました。しかし、実は彼らも受験生だったので。要するに、神学部別科というのは、今でいう社会人入学のようなもので、あとで聞いてみると、さまざまな経歴の人がいることがわかりました。杉山さんも満20歳でしたが、すでに大阪

府立農学校を卒業し、和歌山県農会技手として2年ほど勤め、そこをやめてからの受験ですから、社会人入学になるわけです。しかし、同室の受験生のなかでは格段に若く、青年というより先紅顔の美少年にみえました。ちなみに杉山さんは、入学後、卒業まで東北学院の夏冬の制服制帽ですごしましたが、他の同級生たちは終始着物姿でした。

4月9日、東北学院の事務に行くと、「入学を許す」とのことでありました。こうして杉山さんは、晴れて東北学院神学部別科の生徒となったわけです。ちなみに、この年は神学科への入学者が多かった年といわれていますが、専門部神学科に赤星仙太・岸波常蔵の2名、同予科に馬場雄助・熊坂登三郎の2名、別科に菅井喜七(無試験)・堀内真澄・杉山元治郎・手塚儀一郎・増富半蔵・氏家運其の6名、合計10名でした。無試験とあるのはさしずめ推薦入学といったところでしょう。

10日に普通部の生徒たちと一緒に始業式があり、神学生たちの始業式

は別に11日午後7時から行われ、院長のデイヴィッド・ポーマン・シュネーダー先生から、神学生は「スコラチック・ライフ, リポーショナル・ライフ, アクチーブ・ライフの3つを併行さるべきである」との訓示を受けています。

授業は12日から始まりましたが、1年生の杉山さんが受けた科目は、出村悌三郎先生の心理学、アレン・リライン・ファウスト先生の弁証論と聖書歴史、シュネーダー院長の神学緒論、伊藤嘉吉先生の聖書緒論などであったことが、杉山さんが製本して一生座右に置いたノートからわかります。



「東北教会時報」の杉山さんらの入学許可の記事

# From the President.

学長室より

## 指で聴く、そして人工内耳 感覚情報工学



学長 星宮 望

ここに、『指で聴く』という題名の本があります。北大選書で故・吉本千禎北海道大学名誉教授の著書です。吉本先生は、医工学とくに人の感覚系についての工学的な研究を推進された日本のパイオニアです。私は、この吉本先生が定年退官された後の後任の教授として、1982年に招聘され、北海道大学応用電気研究所の感覚情報工学部門の主任教授となりました。それまで、東北大学工学部電子工学科の電子回路工学講座の助教授を約10年間務めておりましたが、北海道には全く知り合いもあらず、大変戸惑いました。しかし、指導教授である故・松尾正之教授のお勧めもあって、ほとんど知り合いのいない札幌に家族と赴任し、ここで、新しい研究分野である感覚情報工学に挑戦することになりました。そこでの主たる研究内容については、別途記しますので、今回は、この研究室でこの時までに行われていて、私が赴任してからも継続した研究で、多くの方に興味を持っていただけたもの一端をご紹介します。

我々の感覚器官には、視覚・聴覚・触覚・味覚...などがあり、普通にはその存在を意識しないで生活しています。しかし、いったん、これらの感覚機能が損傷を受けたときは大変な困難を伴うこととなります。これらの感覚情報を司る機能の障害があったときに、それらの機能の代行あるいは補助を電子工学的な手法で行うための研究をすることを主たる目的とした研究室がこの感覚情報工学部門でありました。この研

究室での研究テーマとして、私は、前任の吉本教授の時代から行ってきた「感覚代行と感覚機能補綴」と私のメインの研究テーマである「機能的電気刺激による麻痺肢の制御」の研究を主として行うことにしました。今回は前者の「感覚代行と感覚機能補綴」を取り上げます。このテーマは、上述の通り、吉本先生のグループが始めた研究でしたが、この当時には、感覚情報工学部門の伊福部達助教授（その後、東京大学教授）が中心になって研究を推進していました。このような事情から、私の研究室の研究テーマとして、聴覚障害者に対する電子的な聴覚補助装置の開発を継続することになりました。その中の主な研究を2件紹介します。

その1件目は、表題にあるように、人の音声をマイクロフォンで検出した後で、帯域通過フィルタで周波数分析し、低音から高音までを例えば16チャンネルの信号に分けて、それぞれの信号強度に比例した強さで、被験者の指先を微小な圧電振動子で機械的な振動に変換して情報提示するものです。これは、いわば、電光掲示板の機能を微小な振動刺激として指先に提示するものです。したがって、ある程度の訓練を受けた後では、他人の音声信号を指先に加えられる振動刺激パターンとして文字情報を感じとることができます。この装置は、市販されるまでになりましたが、まだ普及するに至っていないのは残念です。

その2件目は、表題にある人工内耳です。重度の聴覚障害になった患者さんに音声を聞かせるための新しい電子

的なシステムです。鼓膜など外耳の機能低下に対しては、「補聴器」が有効ですが、内耳に起因する聴覚障害には使えません。これも、前者と同様に音声をマイクロフォンで検出した後で、帯域通過フィルタで周波数分析し、低音から高音までを例えば16チャンネルの信号に分けて、それぞれの信号強度に比例した強さで、被験者の聴覚器官である内耳の蝸牛管に挿入した微小電極を介して聴覚の神経系を電気刺激するものです。私の研究室では、当時、米国のスタンフォード大学のホワイト教授らとの共同研究を行い、臨床的な応用に入る段階まで進めることができました。しかし、それより少し前に開発していたニュージーランドのグループのシステム（22チャンネルシステム）が国際的にも臨床応用の承認を得て、商品化したために、世に出ることがなかったことは残念です。その後、日本においてもこの外国のシステムが臨床的に使われ始めています。

このように、医用電子工学あるいは生体電子工学とよばれる新しい分野で、挑戦的な研究が次々と行われており、我々は常にその渦中であって全力を傾けてきています。実際には、わずかな先進性の違いなどで、学術的あるいは商業的な優劣が出ることはやむをえないことです。しかし、21世紀における、これらの分野は、必ずや大きく進展し、高齢社会における重要な基幹的な医療技術・支援手段として人々の役に立つことになる信じ、今後も研究を推進していきたいと思っています。

# 協奏

そして

# 共創

へ

## 第5回 東北学院大学文化講演会2007



東北学院大学文化講演会は、地域社会と連携を深めながら、社会人の教養を高め、生涯学習の要求の高まりによって、年齢・性別・学歴・地域を問わず広く地域住民のニーズに対応していく必要から、宮城県を除く東北5県の県庁所在地において毎年巡回方式にて開催しているものです。

今年度は平成19年11月17日(土)午後2時より、福島市の「コラッセふくしま」において、昨年の山形県に続き第5回東北学院大学文化講演会2007を開催いたしました。講師には農学博士で醸造学・発酵学・食文化論を専門とする東京農業大学応用生物科学部教授の小泉武夫先生をお迎えし、「『発酵の神秘』-発酵と人類の知恵-」と題してご講演をいただきました。小泉武夫先生は地元福島県の御出身で、現在、福島県の「しゃくなげ大使」に就任されるなど教育・研究に限らず多方面にわたり御活躍中です。

当日は、先生の得意な食の文化を中心に、すばらしい民族の知恵を日本の遺産、世界の遺産として残していかなければならないことを強調する講演から始まりました。中でも、今では日本で幻になりつつある青森県の伝統的な発酵食品「アケビのなれ寿司」や、世界の驚くべき3大発酵食品として、世界一臭い缶詰のスウェーデンの食品「シュールストレミング」(魚のにしんを塩付けにし、玉ねぎとまぜて缶詰で発酵させたもの)、石川県の猛毒のふぐの卵巣を食べられるようにした幻の珍味「ふぐの子(卵巣)糠漬」、冒険家植村直己氏が冒険の際に好んで食べたというイヌイット族の「キャビヤック」(あざらしの皮の中にうみつばめを詰めて発酵させたもの)などが披露されました。身近な話題では、アミノ酸など栄養が豊富な「納豆」を赤ちゃんに食べさせると本能的に全員が食べるとか、これからの食品として江戸時代からの歴史を紹介されながら全てのビタミンが含まれている「甘酒」の薦めや、さらに、今後の発酵研究が医療関係にも盛んに応用され、がん撲滅を始めとするさまざまな方面に影響を与えている状況など興味深いお話が盛りだくさんでした。

一般の方々もたくさんご参加いただき、参加者からは、「お話が大変わかりやすく期待通りだった。発酵食品の素晴らしさがよくわかった。今後も継続して講演を提供してほしい」など、多くの貴重なご意見を頂戴し成功裏に終了することができました。今後の講演会開催に生かしていきたいと考えています。

# を開催しました



## 平成19年度卒業式 平成20年度入学式のご案内

### 平成19年度卒業式

日時：平成20年3月24日(月)

9時30分～10時30分

(経済学部・経済学研究科)

12時30分～13時30分

(工学部・教養学部・工学研究科

人間情報学研究科)

15時～16時

(文学部・法学部・文学研究科・法学研究科

法務研究科)

会場：仙台サンプラザホール(仙台市宮城野区榴岡)

### 平成20年度入学式

日時：平成20年4月3日(木)

10時～11時

(文学部・法学部・文学研究科・法学研究科

法務研究科)

12時30分～13時30分

(経済学部・経済学研究科)

15時～16時

(工学部・教養学部・工学研究科

人間情報学研究科)

会場：仙台サンプラザホール(仙台市宮城野区榴岡)

東北学院大学の卒業式・入学式は、キリスト教大学として、讃美歌を歌い聖書の言葉を聴く礼拝形式で営まれます。

本年は仙台サンプラザを会場といたしますため、3部制となります。お席に限りがありますので、学生のご父母ならびにご親戚の方のみのご出席とさせていただきます。

なお、会場には駐車場がございませんので、公共交通機関でのご来場をお願いいたします。

問い合わせ先 総務部総務課 TEL . 022-264-6412  
Email tgusomu@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

#### 会場案内図





## 教養学部

### 二十歳になった教養学部

20歳を過ぎた犬というのはなかなかいないそうです。人間にしてみれば70歳から80歳の年齢でしょうし、白内障や足腰たたずの老犬を見ていると、残躯ひきずるかわいそうな印象が残ります。教養学部も今年で創設20年を迎えました。こんな言い方をすると、教養学部を老犬にたとえているような印象を与えそうですが、20年を迎えた学部など、古い履歴を抱えた学部に比べれば、子どものようなものです。その子どものような学部がやっと大人になりかけたわけです。

人間の年齢と学部の年齢とは違います。比較しようがありませんが、それでも人間が運用してきた制度であることを思うと、それなりの類比も可能です。むかし、30歳を目前にしたころ、私を指導していた教官にこう言われました。今の青年は20ではなんの感慨も湧かないだろうけれど、さすが30の声を聞くといささかの感慨は湧くでしょうと。20歳というのは、節目であるとも言えるし、そうでないとも言えます。今日の成人式における乱脈を見ると、節目ではないと言い切った方がよいのかもしれませんが、大人になりたい青年、大人であることを拒否する青年を社会は

許容しているからです。

先日、学生に成人式の話をしていたら、「へえー、成人式ってお祝いだっただんですか」と驚かれました。社会から引退する高齢者を補って、新しく社会に参加する青年を迎えることが、社会にとってお祝いではなくてなんだろうか。社会は生きて動いている生命体なのですから。その学生は成人式を、着飾って参加する同窓会に過ぎないものと思い込んでいたようです。

教養学部は今年、大人の仲間入りを果たします。成人したくない若者とは違って、教養学部は、成長した大人の姿を地域社会に示したいと思います。今日の地域社会はたくさんの難問を抱えています。その社会にありうる指針と方向を与え、社会に若々しい動きと新しさをもたらす必要があるでしょう。社会は言うまでもなく、人から成り立っています。未成熟な若者とは異なって、大人としての責任と品格を備えた学生を教育し、社会に送り出したいと願っています。今後の教養学部の動きにご期待いただければと思います。さきほどの私の指導教官の話をもじれば、教養学部は20歳になって、それなりの感慨と覚悟を抱いたということになると思います。



# 工学研究科

工学研究科には、4つの専攻が設けられており、科学技術の進展に合わせて、適宜、教育・研究内容の見直しを行っています。今回はその中から機械工学専攻の各分野で行われている研究を紹介いたします。近年、機械工学系分野では、他の工学分野と同様に新しい領域の研究が行われてきています。機械工学専攻ではこのような研究領域の新たな展開にあわせて、これまでの材料系、工作系、熱・流体系および制御系に、新たに生体系を加えて大学院教育・研究の充実をはかっています。生体系では、次世代医療への応用が期待されるマイクロ針を用いた無痛採血・分析システムの開発を目指した検討や、機械の究極の理想像である生体組織における構造とその生体組織が果たす機能との関係を解明するための研究が行われています。また、制御系では、ロボットに関連した研究が行われており、例えば、介護などに応用される人体に直接接することのできる安全で、安らぎをも感じさせるロボットハンドの開発や、実用性を重視したロボットの開発とそのロボット用の観測手法、装置の開発およびコンピュータの活用などについて研究が行われています。

他の系でも、新しい発想に基づく研究が行われています。例えば、工作系ではこの分野では従来から好ましくない現象であった共振を利用したケーブルのない管内走行用の磁気アクチュエータの試作研究が行われており、原子炉、化学プラント、さらには医療などの幅広い分野における応用が期待されています。また、近年、携帯電話など我々の身近にある機器の多くで使われている、セラミックスや石英ガラスなどの硬くてもろい材料の精密な部品を、高精度で大量に製造するための加工法の検討などが行われています。材料系では、様々な材料内部の目に見えない傷や欠陥、表面の微小な傷の新しい検出法の検討や、形状記憶合金などの種々の金属の性質や特性などについての研究が行われています。熱・流体系では、自動車のエンジン内の燃料の燃焼に関連した噴霧などの液体微粒化現象について独自の手法を用いた非正常特性の解析や、プラズマ噴流に強い磁場を加えた場合の変化についての実験研究などが行われています。このように機械工学専攻では、最先端の研究設備を導入し、機械工学専攻で学んだ大学院生が社会に向かって大いに飛躍できる環境を整えています。

# 学生街を歩く Quartier Latin T.G.U.

心が喜ぶ、しあわせのお菓子たち

フランス菓子  
パティスリー シセイドウ Pâtisserie SHISEIDO



国道45号線を仙台新港方向へ少し入ったところにチョコレート菓子のような建物の洋菓子店があります。名前は「パティスリー シセイドウ」。カラフルでかわいらしいマカロンで全国的に有名なお店です。

シェフパティシエの村田和範さんが初めてマカロンに出会ったのは、大阪の製菓学校を経てフランスに留学した10代の頃。今から20数年前のことでした。テレビの紀行番組も少なく、インターネットも無かった当時、本場のお菓子づくりを学ぶならフランスで、という思いでの渡仏。目にしたものの口にしたもの全てを心の引き出しにしまい込もうという程の意気込みだったそうです。そんな中で口にしたマカロンは、お世辞にもおいしいと思えるものではなく、「これだけは引き出しにしまわなくていい!!」と心に誓ったほど、最悪な第一印象でした。

帰国後は、本場の味を再現することに全力を注ぐも、満足のいくものができず思い悩む日々。そこで全てを見直し、フランスと日本では手に入る材料や道具、気候や環境が違うことに気付きます。そこからは研究の毎日。日本に合った製法を追究し、納得できるお菓子が作れたときには16年の年月が経っていました。

留学当時、あえて印象に残さなかったマカロンも村田流に再現。地中海の原種アーモンドと、コーンスターチを除いた粉砂糖を使用し、米粉をブレンドした生地で焼いたマカロンは、歯応え、口溶け、甘さ、風味が絶妙。今では心の引き出しにしまうどころか、毎朝マカロンに会うのが楽しみほど愛しているのだから、

愛しのマカロンは、毎日500個限定。午前中には完売してしまうので、事前予約がおすすめです。店内はいつも、ナチュラルなものにこだわり、旬の恵みを使ったケーキや焼き菓子をお客さんと溢れています。

今年5月、店の名前が『パティスリー シセイドウ』から『Pâtisserie Kazunoli Mulata(パティスリー カズノリ ムラタ)』に変わります。村田さん作り出す「フランス仕込みの多賀城菓子」は、これからも、私たちに心のしあわせを届けてくれることでしょう。

フランス菓子  
Pâtisserie SHISEIDO

OPEN 9:30 - 20:00  
休 日 毎週火曜日(月一度水曜日)  
多賀城市町前3-2-25  
TEL.022-362-7767



大学院より「訂正」 - 前号の『大学院より』に、「人間情報学研究科が平成21年4月を以て、2専攻への改組に取り組んでいる。記事を掲載しましたが、昨年11月においてそのプランを研究科委員会で承認して以来、準備に取り組んで参りましたが、諸般の事情で、この11月の研究科委員会で、そのプランを白紙に戻すことが決まりました。改組の時期、改組の内容については未定です。したがって、前号の記事の取り消しのご連絡がたが、ご迷惑をおかけしたことをお詫言申し上げます。 - 人間情報学研究科

工学研究科電気工学専攻

# 二階堂佳世さんが 「電気学会優秀論文発表賞」を受賞



— 受賞おめでとうございます。まず、今回受賞された賞と論文についてお伺いします。

ありがとうございます。今回賞を頂いたのはコンクリートの寿命を電気的方法で測る、ワイヤーループ測定の方法の論文です。これは、ワイヤをコンクリートに巻き付け電気を流して寿命や成分の構成を測るもので、流れ方や周波数を変えることによって特性を見ます。現在のコンクリートの診断方法は小さくくり抜いて粉々にし、測定するというものですが、この方法であればその場で、キズをつけることなく測定できるという利点があります。

大学時代は、今と同じ嶺岸研究室で数学的なことを研究していましたが、大学院に入った頃にマンション等の耐震問題がクローズアップされていたことがきっかけとなり、この研究に取り組むことになりました。数学とは全く分野が違っていたので、最初は戸惑いもありましたが、実際に取り組んでみると大変おもしろく興味がわいてきました。

今回の発表は東北支部大会で行いましたが、受賞は全国の中から。いつもは東北大学の方が受賞されるそうで、本学としては初だということです。

— 子どもの頃から理数的な分野は好きだったのですか。

子どもの頃は数学が苦手でしたが、中学校の先生のお陰で好きになりました。東北学院榴ヶ岡高校でも良い先生に出会い、さらに数学が好きになっていきました。その頃から将来は数学の先生になりたいと思っており、大学は理系に進もうと決めていました。

— 本学の工学部を志望した理由を聞かせてください。

教職免許が取得できること、祖父が東北電力に務めていたこともあり電気に興味があったこと、大好きな数学が学べるということで、電気情報工

学科を選びました。音大に進んで小学校の頃から続けてきたクラリネットを学ぼうか、という気持ちもあり正直迷いましたが。

— 在学中のエピソード、忘れられない思い出などがありますか。

高校時代は音楽と数学に夢中で、他のことには興味がなかったのですが、大学の写真部に入ったことで新しい世界が広がりました。音楽と似ていて、見えないものが見えてくるような感覚に惹かれています。また、どの授業も興味深く、受けられるだけ受けました。単位は人一倍とりましたね。何か頑張ったという証が欲しくて。

— 今後の展開、将来の夢などをお聞かせください。

やはり教師になりたいと思います。現在、研究をしながら榴ヶ岡高校で情報の講師をしているのですが、教えることがとても楽しいのです。もちろん大変なこともあります。今、理数離れが進んでいると言われていますが、自分がそうしてもらったように抵抗なく数学を学べるような教え方ができればと思っています。

— 後輩たちにメッセージをお願いします。

工学部は男女や学年をこえて仲が良くまとまりのある学部です。確かに女子は少ないけれど、大丈夫。いろいろな道がひらけますよ。



東北学院榴ヶ岡高等学校卒業。東北学院大学工学部電気情報工学科を経て東北学院大学大学院工学研究科電気工学専攻にて学ぶ。嶺岸研究室所属。

## チャレンジ精神を大切に 自分を磨き続けています

株式会社ヨシダ  
常務取締役経理部長

よし だ きょう こ  
吉田 恭子 氏

1944(昭和19)年 福島県南相馬市(旧・鹿島町)生まれ  
1966(昭和41)年3月 東北学院大学文学部英文学科卒業  
同年 4月 福島県双葉郡富岡町富岡第一中学校教諭  
1968(昭和43)年3月 同 結婚退職  
同年 4月 株式会社ヨシダ入社  
1975(昭和50)年4月 公認いけ高等タイピスト学校設立  
1988(昭和63)年まで兼務、現在に至る

### 本学に入学したきっかけは何ですか -

私が学生の頃は、女子が4年制大学へ進むというのは、まだそれほど一般的ではありませんでした。ところが、上級学校へ行きたくても行かせてもらえなかったという私の父が、「行きたければ行っていいんだぞ」と理解を示してくれたおかげで、4年制大学への進学を決意しました。当初は薬剤師になりたいという思いもあったんですけど、最終的には地元で塾を開いていた先生の勧めが決め手となって、東北学院大学に入学しました。実はその先生も東北学院大学の卒業生だったんですよ。

### 大学4年間で一番印象に残っていることは -

ESSでのサークル活動です。当時の私は、空き時間を利用してタイピスト学校にも通っていたので、英語劇の台本をつくらうときは重宝がられましたね。夜は遅くまで部屋に残って、英文タイプを打っていました。「ベニスの商人」とか、仙台の大学で英語劇を演じたのは、おそらく自分たちが最初だと思います。

それからESSの仲間とは、よく仙台駅に行って、外国人の観光客に声をかけ、ボランティアで道案内を買って出たりしていました。ネイティブスピーカーと話すことで、生きた英語を身に付けよう、自分たちの英語力を試してみよう、みんなの中には、そんな気持ちが強く働いていましたね。観光ガイドで役立つようにと、歴史のことも勉強しました。今思うと、当時の学生はよく勉強しましたよ。とにかく勉強がしたいという一心で、大学へ来ている人が多かったですから、自分から果敢にチャレンジすること、そのひとつひとつが、大学での学びにつながっていたんだと思います。自分を大学へ行かせてくれた親には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

### 卒業後は教員をなさっていたそうですが その頃の思い出は -

福島県内の公立中学校で2年間、教職に就いていました。当時の中学校としては珍しく、新卒者が私を含めて3人もいたんですよ。年配の先生方が多い職場だったので、みんなからは可愛がられましたね。生徒たちとは、勉強や部活動だけでなく、釣りや

サイクリングにも一緒に行ったりして、とても充実した教員生活が送れました。

### 現在の仕事に就いたのは結婚がきっかけですか -

当時勤めていた中学校に、タイプライターを納めに来ていたのが、今の主人です。結婚後は教員を辞めて、いわき市内にある主人の会社で働くようになりました。1932(昭和7)年の創業で、事務機や印刷をメインで扱っている会社です。何しろ初めて目の当たりにする業界、不慣れな経理畑での仕事、嫁ぎ先での家事や子育て、嫁として、母として、そして社員として、毎日が勉強の連続でした。お茶やお花といった花嫁修業も結婚してから始め、一人2役、ときには一人3役ぐらゐをこなしながら、常に全力で走り続けたような気がします。1975(昭和50)年には、主人の夢でもあったタイピスト学校を開設。私自身、そこで英文タイプを教えた先していました。結婚して20年あまり、心労が重なって病院へ通ったこともありましたが、「これは誰のせいでもない。すべては自分で選んだ道なんだ」と自分自身に言い聞かせながら、新しいことにチャレンジし続けてきました。

### 大学での4年間は現在の自分に どう生かされていますか -

学生時代はもちろん、教職に就いていた頃も、会社勤めをするようになってからも、ずっと勉強の連続です。挑戦を続けています。そしてやるからにはベストを尽くしたい。そんな気持ちが、これまでの自分を支えてきました。

### 後輩たちへのメッセージをお願いします -

私たちの頃と違って、今の学生は恵まれています。だからこそ物のありがたみや、親への感謝の気持ちを大切にしたいというのはありますね。そしてこれは学生というより、親への要望になってしまいますが、近頃は大人のモラルの低下が目立ちます。子供というのは、社会や親の合わせ鏡ですから、やはりまずは親が手本を示すべきだと思います。

## 低学年次学生への進路支援

いまや全国の大学において、学生の育成やサービス、将来の進路や就職を見据えた低学年次の学生のためのキャリア教育・キャリア支援等が幅広く求められています。東北学院大学においても、昨年から開催しています後援会の支援による就職部主催、低学年次学生向けの就職・進路支援行事「トークイベント」が、今年度も10月1日を皮切りに11月末まで泉キャンパスにおいて、10回開催されました。これは『プロにきく仕事の話』というタイトルで、各界で活躍されている方々によるトークイベントです。企業人や異なる世代の貴重な助言が直接聞けるこのイベントは、参加学生から大きな反響が寄せられており、今後の学生生活を送るため自分自身への「気づき」につながるきっかけとなっています。このような形で、就職部では、これからも学生のための支援をより一層強化充実してまいります。



土樋キャンパス就職課  
TEL 022-264-6481 FAX 022-264-6486  
多賀城キャンパス就職係  
TEL 022-368-1101 FAX 022-368-1118  
泉キャンパス就職係  
TEL 022-375-1161 FAX 022-375-1534



「ウーラノス」は「天」を意味するギリシャ語です。使徒パウロは、イエス・キリストについて「神は、十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられました。」(コロサイの信徒への手紙1章20節)と説明しています。この箇所にも οὐρανός の語が用いられています。

### 教育研究振興資金募集のお願い

学校法人東北学院では、平成16年4月1日から平成21年3月31日の期間、右記事業の完遂に向けて教育研究振興資金を募集しております。広く皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。  
詳しくは、東北学院法人事務局財務部会計課までお問い合わせください。

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1  
TEL.022-264-6467  
FAX.022-264-6510

#### 【募金目標額20億円】

1. 東北学院榴ヶ岡高等学校体育館 および管理棟建設
2. 東北学院大学キャンパス整備
3. 東北学院会館(仮称)建設
4. 東北学院育英奨学基金の増額
5. 東北学院中学高等学校校舎建設

#### 東北学院大学

土樋キャンパス  
大学院：文学研究科、経済学研究科、法学研究科  
法務研究科  
学 部：文学部・経済学部・法学部(各3・4年)  
夜間主コース  
〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
TEL.022-264-6411 FAX.022-264-3030

多賀城キャンパス  
大学院：工学研究科  
学 部：工学部  
〒985-8537 宮城県多賀城市中央一丁目13番1号  
TEL.022-368-1116 FAX.022-368-7070

泉キャンパス  
大学院：人間情報学研究科  
学 部：文学部・経済学部・法学部(各1・2年)  
教養学部  
〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号  
TEL.022-375-1121 FAX.022-375-4040

#### 東北学院中学校・東北学院高等学校

〒983-8565 仙台市宮城野区小鶴字高野123番1  
TEL.022-786-1231 FAX.022-786-1460

#### 東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3105 仙台市泉区天神沢二丁目2番1号  
TEL.022-372-6611 FAX.022-375-6966

#### 東北学院幼稚園

〒985-0862 宮城県多賀城市高崎三丁目7番7号  
TEL.022-368-8600 FAX.022-309-2655



#### ウーラノス

東北学院大学 広報誌 vol.27

#### 広報誌編集委員会

委員長	総務担当副学長	関谷 登
副委員長	総務部長	柴田 良孝
編集長	経済学部教授	原田 善教
委員	宗教学部長	佐々木 哲夫
	文学部教授	楠 義彦
	経済学部准教授	白鳥 圭志
	法学部教授	塩屋 保
	工学部教授	石川 雅美
	教養学部准教授	佐々木 桂二
	総務部次長	鈴木 孝郎
	総務部総務課長補佐	斎藤 信二
	総務部総務課係長	山本 隆夫
	総務部総務課	藁科 明宏

東北学院大学広報誌『OYRANOS (ウーラノス)』に関するご意見・ご質問をお待ちしております。

#### 本誌における個人情報及び掲載記事の取り扱いについて

本誌に掲載されている個人情報は、本人の了解のもとで本誌に限り公開しているものです。よって、第三者がそれらの個人情報を別の目的で利用することや、本誌の無断転載はお断りしております。

発行日は、5月15日・10月20日・2月20日です。

発行日 平成20(2008)年2月20日  
編集 東北学院大学 広報誌編集委員会  
発行 東北学院大学  
〒980-8511  
仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
TEL 022-264-6412 FAX 022-264-3030  
URL <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>  
E-mail [uranos@staff.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:uranos@staff.tohoku-gakuin.ac.jp)  
印刷 株式会社エイビー



古紙配合率100%再生紙を使用しています。この印刷物は環境にやさしい植物性大豆インクを使用しています。